

新品種導入のためのカンキツのウイルスフリー苗の作出

【研究のポイント】

カンキツ樹にウイルスが感染すると、減収や品質低下などの悪影響が生じてしまい、万一感染が広がってしまうと樹園地や産地に影響が出てしまいます。ウイルス感染原因の一つに感染した穂木を接木してしまふことがあります。そのため、新しい品種に改植したり、高接ぎ更新する際にはウイルスに感染していない(ウイルスフリー)穂木を作出しなければなりません。そこで、近年新たに開発されたウイルスフリー化技術を実証するとともに、当グループにおける実施体制を整備しました。

【研究の成果】

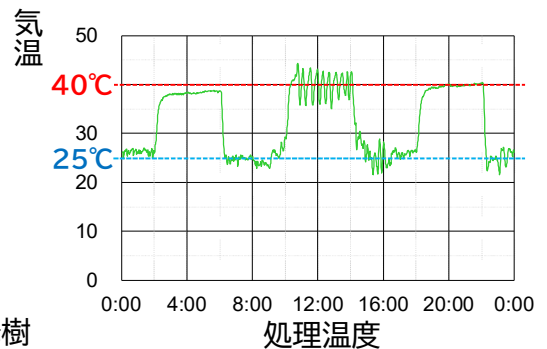
ウイルスフリー化の手順

近年開発された母樹への負担が少ないウイルスフリー化技術は、断続熱処理(40℃/4h-25℃/4h)した母樹の茎頂を接ぎ木する技術で、この処理方法を元に当グループの温泉熱を活用し、温度コントロール機器を持たせた高温処理装置を作成のうえ実証を試みました。

① 採穂用母樹の高温処理



温泉熱を利用した高温ハウスに置かれた母樹



② 茎頂接木



ウイルスが含まれない新梢先端の茎頂(成長点)を0.5mmの長さで切り出して台木に接木

③ 苗の養成、ウイルス検査

成長



遺伝子診断(PCR法)によるウイルス検査を実施
⇒ 陰性確認後、増殖・配布

カンキツのウイルスフリー化の実施体制を整えることができた

【生産者の声】



苗木を増殖するためにはウイルスフリー化が不可欠です。今後も新しい品種を導入していくために必要な技術なので、引き続き取組んで頂けるようお願いいたします。

杵築地域柑橘研究会 越智 春樹 氏

【連絡先】

担当： 農業研究部花きグループ花きチーム
TEL： 0977-66-4706
住所： 大分県別府市大字鶴見710-1